

今週のメニュー

■トピックス

◇名古屋プラスチック工業展 2012

ー塩ビものづくりコンテスト 特別展示ー

日本ビニル工業会 鈴木 環

■随想

◇びっくり闘病記（その5）ーいよいよ手術！ー

関東学院大学 織 朱實

■編集後記

■トピックス

◇名古屋プラスチック工業展 2012

ー塩ビものづくりコンテスト 特別展示ー

日本ビニル工業会 鈴木 環

10月2日から4日まで愛知県の「ポートメッセなごや」にて、今回30回目を迎えた、中部地区最大規模のプラスチック産業展示会「[名古屋プラスチック工業展 2012](#)」が開催されました。（中部プラスチック工業会、中部日本プラスチック製品工業協会、日刊工業新聞、主催。経産省、愛知県、名古屋市 他、後援。）

中部地区中心に150社もの企業から、加工機械、成形機、ロボット、部品、計器、廃棄物処理、リサイクル関連機器、原料、副資材、金型などが出展され、開会式では、主催の中部プラスチック工業会勝山会長から塩ビの前向きな取り組みの紹介がありました。

3日間で約1万5千人の入場者があり、盛況な展示会となりました。

今回は、昨年塩ビ関連団体が協力して行った、「塩ビものづくりコンテスト」の受賞作品が主催者の招待を受け、[特別企画](#)として展示されました。

昨年、幕張メッセで行われた国際プラスチックフェアでも特別展示を行い、軟質塩ビの特長や優位性をPRしましたが、今回も準大賞作品の「サクラ」や「優雨」、製品受賞の「簡易貯水タンク 貯タンくん」など様々な作品、製品を展示して軟質PVCの応用性、可能性などをPRしました。

会場には塩ビの説明資料、パンフレット等も準備して、将来の石油資源の枯渇化、地球温暖化などの面から、PVCは、省資源、環境負荷小、長寿命、リサイクル可能などの優位性があり、最近、再評価されてきている事などを来場者に説明しました。



勝山会長の挨拶



塩ビものづくりコンテスト展示ブース

今年、塩ビものづくりコンテストは第2回目を迎え、「PVC Design Award 2012」という名称とともに開催し、現在審査中で、11月末には優秀な作品、製品が表彰される予定です。

軟質塩ビはその柔軟な特性を活かして、広告、ディスプレイ、バッグ、シューズ、服装、玩具、文具、家具、壁紙、床材、医療・介護用品、大型シートなど私たちの暮らしに身近な素材として幅広く使用されています。

コンテストでは一般のデザイナーや学生など優れた可能性をもつアイデアやデザインなどを塩ビ製品に取り込み、産学コラボの商品化なども考えています。

今後もこのような試みにより、塩ビの特長や可能性を訴えていきたいと思えます。

■ 随想

◇びっくり闘病記（その5）ーいよいよ手術！ー

関東学院大学 織 朱實

手術は、3人の先生のチームで担当してくださることになり、メインの執刀医は今までずっとみてくださっていたT部長先生。他に若い先生がお二人、手術前後の様子のフォローも含め、ついてくださることに。

「手術の時間はどれくらいですか？」

「4～8時間、部位によっても違ってくるし、これは開けてみないと分からないですね。まあ、〇〇さん（私の本名は）当日は手術室にはいったら麻酔ですぐ寝てしまうので、目が覚めたら終わっているという感じですね」

「そうですね～、目が覚めなければ、いずれにしても、終わりですものね、ハハ（乾いた笑い）」

「そうそう！（大笑）」とどこまでも軽いノリの部長先生。

「手術のあとは、どんな感じですか？」

「外科手術は、内科とちがって、すばっとしているんですよ。悪いところをとってしまつたら、もう傷がふさがつたら2日くらいで退院してもらってもいいくらいですからね。」

ほー、外科手術というのは手術する先生は大変だけど、患者さんは楽チンなんだな、と（これがあとで大間違いの勘違いだと思ひ知ること）。

びっくりしたのは、8時間くらいの長い手術でも、手術中、先生はトイレに全く行きたくない、というお話し。仕事に集中するというのは、そういうことですよ。この話は、90分の授業でも、「先生！トイレに行ってきていいですか」というふざけたことを言う学生にも聞かせないと、心のメモにしっかり刻まれたのでした。

手術前の回診で、すっかり「じたばたしても仕方ないよね。先生にお任せだし、スパッととるだけだしね」そのあと、1週間入院しているから、仕事もそこで片づけてしまえばいいし～とお気楽に構えていたら、

回診の若い先生に「仕事？とんでもないです！！仕事なんか、すぐにできる状態でないですよ！〇〇さん、わかっていますか？脊髄をあけるんですよ？大手術なんですから、しばらくは立っても吐いたり、平衡感覚がつかめなかったり、体が回復するまで大変なんですよ」と認識の甘さを怒られてしまい、これはまずい！締切に間に合わない原稿がいくつもでてくる（というかそもそも手術失敗したら原稿落としてしまう）、と手術前日にベッド上でわき目も振らず原稿を書くことになり、副院長の回診のときには、「仕事？こんな

時まで、えらいね。でも、緊張しなくていいね」と変な褒め言葉までもらう始末。ちなみに、一つはこの塩ビメルマガの原稿（バリ島編。病院のベッドでバリ旅行記を書いているなんて。。とほほ、って感じですよ）。

～ 手術当日の様子 ～

さて、手術当日2月23日朝8時15分。4階の手術室まで、家族と看護師さんと歩いていきました。なんだかんだいって、やはり緊張したのですが、手術室は、手術着に着替えた患者さんがたくさんいて、ちょっと宇宙ターミナルの待合室風でした（薄緑のヘヤーキャップをかぶり、同じく薄緑の手術着の老若男女が、ちょっと緊張した面持ちでひしめく中、手術用のグローブをした麻酔の先生や看護師さんたちが行きかっているという、思わず「写真撮ってブログにアップしたい」とか思ってしまいました）。

手術の様子は、手術経験者の友人が事前にメールで送ってくれていた通りでしたので、彼女のメールを引用して紹介します。

「お名前をフルネームで言って下さい」「手術する部位を言って下さい」・・・などの質問があり、全身麻酔だけの手術であれば、「はい、息を大きく吸って、10からカウントダウンして下さい・・・」

とか言われて数字を数えたのかも分からないうちにアッと言う間に意識が無くなり、

「●●さん、無事手術終わりましたよ。」と言われて、ぱっと眼が覚めるという感じです。

その間、「あっ、2～3分うとうとしちゃったのかしら・・・」程度の感じです。

実は、大変なのは手術後にベッドに戻ってから翌日の朝までだと思います。

まさに！本当に、そのあとが大変でした。

「手術室SFみたいだから、しっかり見ておいたほうがいいよ～」とも言われていたのですが、期待していたほどSFっぽくはなかったのですがむしろ、いろいろ機材や備品、コードの配置が気になり、もう少し整理したほうが、「リスクマネジメントの観点から、いかがなものか」と。職業病ですね。

手術は、本当に友人のメールに書いてあった通り、麻酔の先生と話しているうちにあっ！という間に寝て、起きたら、「今からストレッチャーで移動します」

で、病室にもどって、「無事終わりましたよ」



川沿いの森の中、
赤!赤!赤!
一面の曼珠沙華、
まさに壮観!



「何時間かかりましたか？」

「4時間くらいで、短くくらいでした」「全摘出できたと思います」

本当に大変だったのはメールにあったように、その午後から翌朝6時くらいまででした。ということで、今回は病気になって本当に初めて肉体的に辛かった話です。

写真は、巾着田の曼珠沙華。高麗駅から徒歩10分の巾着田は、9月は一面の曼珠沙華で真っ赤で怖いくらいです。花の写真とそのあと訪れた川越の様子は、[ブログ](#)で見てくださいね。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

今年のノーベル医学・生理学賞に山中伸弥先生が受賞されたことはとても嬉しいニュースでした。先生のインタビューに国民の多くがくぎ付けになったことと思います。失敗を恐れずに、新たな分野に挑まれた成果が実を結び、発表から6年という異例の速さで受賞されたことは、研究開発に携わる方々に勇気を与えて頂きました。再生医療や難病の治療に向けたこれからの研究はさらに難しい道のりと思いますが、「頑張れ！」と応援しています。(円行)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp